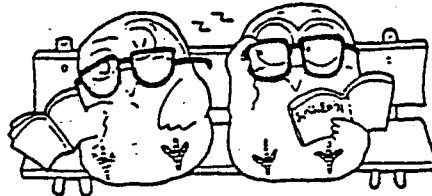


エゾマツ

第5号

発行 ボランティア
レンジャー
「エゾマツ会」
発行責任者 河村千束
1988.5.7



「エゾマツ会」の運営に関するアンケートの中間報告

— 幹事長 大友 健 —

皆様の「エゾマツ会」の運営に関する、アンケートについてのご協力に深く感謝し、紙上より厚くお礼申し上げます。

今回は、47名のかたより回答をいただき回収率55%でした。これらの回答内容より、会の運営にただちに反映したい設問を、役員会で7問にしぼりご意見の傾向をまとめましたので、中間報告いたします。

PART 1

問6、自然を対象とした趣味特技につきましては、42回答のうち、風景写真が38%で、植物動物写真と続き、写真が90%台を占めております。

問7、自然の中にでかける主な目的につきましては、179回答数のうち、山菜きのこ採り16%、自然観察探鳥15%、山歩きハイキング13%、登山・沢登り・登山も、同じく13%が主なものであります。

問8、野鳥の会、植物同好会など、自然対象の会に参加しているかにつきましては50回答数のうち、参加しているのは30%で、他の70%は、参加していないとのことです。

問9、自然観察会等の参加状況については、45回答数のうち、参加したことがなかった人は、58%でありました。



PART 2

問1、「エゾマツ会」の地方支部的な組織は必要かどうかについては、42回答数のうち、40%が必要で、時期尚早が4.7%となっております。

問2、(1)年間の活動計画については、40回答数のうち50%が3か月に1回、次に月1回が23%、更に2か月に1回が20%という意見が主となっております。

(2)行事の内容として、重点をどれにおくべきかについては、37回答のうち、自己資質向上が24%で、一般観察会に併せ自己研鑽になればよいとの考えが77%を占めております。

(3) とりあげてほしい行事としては、16回答数があり、写真展、スケッチ会、スキーツアー、レクスポーツを兼ねた研修登山というところが主となっております。

(4) 「会」の活動計画についての意見提案としては、ネームプレートの着用及び新聞放送機関の活用、同好の集いなどを計画し、会員増となる活動計画を樹立することのご意見でした。

問4 (1) 会報「エゾマツ」について、記載、編集についての意見については、17回答があり、研修行事、結果報告、観察講座、会員の活動内容、会員の声、森林遷移と自然現象の話、専門的立場の人々のレポート、などについての要望が出されておりました。

(2) 発行回数については、34回答があり、年4回程度が適当であると97%の回答率であります。

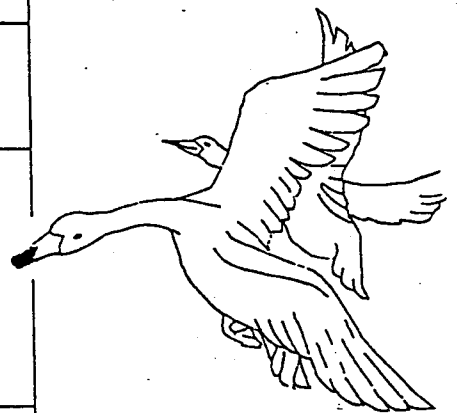
(3) その他、会報への意見として4回答あり現段階で、充分満足しているが特集を年1回企画してはどうか、との貴重な意見がありました。

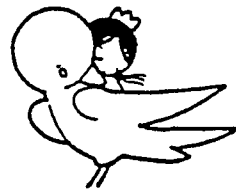
以上、要約致しましたが、今後他項目の整理と検討を充分に致しまして「エゾマツ会」の進むべき基本項目を明確にして、皆様共々楽しい参加の喜びを感じる会にしたいと考えておりますので、よろしくご協力を下さいますようお願い申し上げます。

エゾマツ会行事計画表

「エゾマツ会」の5月から10月までの計画が出ました。ご覧になり多数ご参加下さい。

月 日	行 事	担 当
5月29日 (日)	旭川北郊野草園を尋ねる 北郊野草園と21世紀の森を探訪 参加申込みは5月20日まで右 担当者へ 詳細は別紙	担当 旭川近郊 戸島 電話 0166-53-2881 札幌近郊 高橋 電話 0133-74-2058
6月5日 (日)	環境週間行事 野幌森林公園自然観察会協力参加 詳細別紙	担当 河村 011-561-8669 高橋 0133-74-2058 五十嵐
7月9日 ～10日 (土・日)	雨竜沼高層湿原を尋ねる 参加申込みと合わせは、7月24日 まで、右担当者へ	担当 小山 011-662-3346 吉野 0133-74-0408 岸本 五田
7月29日 30日 31日 金・土・日	ファンファンジャー「ゴマ会」総会 第3回ファンファンジャー育成研究会 開催地 樺太町 参加申し込みその他詳細については 6月末会報6号でお知らせします	担当 大友 011-621-6054 小竹 011-784-6251 高橋 0133-47-2058 小山 011-662-3346
8月6日 (土)	西岡水源地ホタル観察会(札幌) 詳細 会報6号	担当 山上 011-821-3080
9月11日 (日)	岩見沢利根別自然林養林へ キノコの観察 詳細 会報6号	担当 大友 011-621-6054 大杉
9月25日 (日)	手稲山登山 詳細 会報6号	担当 河村 011-561-8669 五田
10月22日 ～23日 (土・日)	ニゾマツ会研究会 1日め 2日め 野幌森林公園秋の自然観察 会を企画運営	担当 河村 大友 小山 五十嵐 詳細は会報6号9月末発行

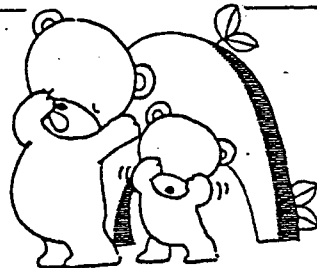




旭川北邦野草園と21世紀の森を尋ねるご案内

- 日時 5月29日(日) 雨天決行
 - 旭川在住の会員の案内により北邦野草園と21世紀の森を尋ねます
 - 日程
・札幌市民会館前7時30分集合
・旭川近郊会員 10時30分 北邦野草園集合
・15時解散 札幌帰着18時予定
 - 費用 札幌よりの参加者はバス代として2000円程度(子供半額)
※ 札幌近郊の方は移動時間短縮のためなるべくバスをご利用ください
- 講師 元北邦野草園々長 吉田友吉氏
- 参加希望は5月10日までに下記担当者にご連絡下さい

札幌近郊 高橋 電話 0133-74-2058
旭川近郊 戸島 電話 0166-53-2881



野幌森林公園自然観察会

来たる6月5日 環境週間行事として道・支庁・野幌森林公園の共催による自然観察会が行われます。この観察会には、昨年より私もエゾマツ会会員もリーダーとして協力参加をしています。日頃の研修の成果をためすよい機会と思われまふ。ふるってご参加ください。

- 日程の細部が未定のため参加要領等は追って参加者にお知らせ致します
- 参加希望者は下記担当者にご面倒でも5月20日までにご連絡ください。

河村 電話 011-561-8669

高橋 電話 0133-74-2058

雨竜沼高層湿原を尋ねる

- 日時 7月9日(土) ~ 10(日) 雨天決行
- やや長い行程ですが、時間的に余裕がありますので、ゆっくりと湿原の植物観察ができます。
- 日程(案)

(9日) 札幌市民会館前 —— 南暑寒荘着 —— (南暑寒荘宿)
 14:00 18:00 20:00
 皆で鍋を囲む

(10日) 南暑寒荘発 $\xrightarrow{4.1 \text{ キロ}}$ 雨竜沼入口着 —— 湖畔1周
 5:00 3時間 8:00 11:30

沼入口発 $\xrightarrow{4.1 \text{ キロ}}$ 南暑寒荘着
 11:30 13:30

南暑寒荘発 —— 札幌市民会館着
 14:00 18:00



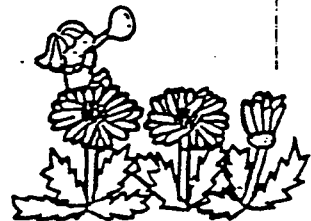
○費用 参加人数により多少変わると考えられますが3000円程度
 (バス代、保険料、夕食の鍋を囲む等含めて)

○持ち物

夜、朝、昼の3食用意(2日目に用意するものは腐りにくいもの、かんずめ、かんぱん、くだもの等・・を用意下さい。)
 雨具、双眼鏡、カメラ、図鑑、筆記用具、寝具等
 履物はキャラバンシューズ等がよいですがジョギングシューズでも大丈夫です。

参加希望者は6月25日(土)までに下記の担当者までご連絡ください。

☎
 小山 —— 001 — 662 — 3346
 吉野 —— 0033 — 74 — 0408
 岸本 —— 011 — 758 — 3060



私の住む住吉浜は、函館山の東、立待岬の麓から市街へ1 Km程度伸びた磯浜です。

この周辺は、早くから開けた地域で八千年前、丸木船で津軽海峡を越えて移り住んだ人の住居跡があり、お金を作った銭座、紙を作った紙座、瀬戸ものを作ったなどの史跡が多く、古くから漁業が盛んで賑わった村として記録されております。つまり、それ程に、人間も含めて生物がすみやすい土地だったと、今も自信をもって言える地域です。

私の家は、この浜辺から40 m程離れた所に、二階建てで立っているために、前浜を一望でき、私の一日は、日の出とカモメの声ではじまります。

三年前に、自然セミナーを受講したのを機会に、この恵まれた環境こそ私の学習の場に相応した場所と考え、住吉浜の観察を始めました。地元に住る地元の話ができるようになりたいと願ったからです。

春から夏にかけては、立待岬の岩場に咲く花を、秋には、数千羽が結集するウミネコを、冬には、越冬するカルガモやコクガンを見ては、住吉浜の自然を楽しんでおります。海辺の観察を続けて、山とは違った観察方式に気がきました。それは、海流と潮の満ち引き、風の向きなどが鳥たちの生活に、大きく関わっているため、観察に出掛ける時は、事前にこれらを調べておくことが、必要だということです。

干潮が近づくと海流と同じ方向でカモ類が磯の周辺に集まって来ます。

海藻を食べるカルガモやコクガンは波防ポットの内側へ、潜水性のウミアイサは波防ポットの沖で盛んに潜ります。これは、私が子どもの頃の磯遊びで見たことですが、干潮が近づくと貝は砂にもぐり、海藻は海面から顔を出し、小魚は沖へ出ます。満潮へ向かうとこの逆が起こります。鳥たちは、この磯の一番良い時間と場所を心得ているのでしょう。

住吉浜の鳥たちを見ていると、かわいらしく、写真集や図鑑では見られない姿で目に映り、「住吉の鳥」という気がするのです。

- ・冬には、あの岩にトドが上がる。
 - ・ムナジロ（オオハムと思う）が、姉っ娘岩に上がる頃は、チカ網のころ。
 - ・シギが来ると春でホッケが大量。
- など

浜では、人も鳥も一体になって生活しているのです。

函館山の春は、1番始めに海辺に訪れます。雪も降らない場所で、潮風にふきさらされながら春を待つ植物は、一度暖かい風が吹くと、先を競うように芽をふきます。崖のくずれた土の中から、ふきのとうが顔を出す頃は、もう海に春が来た知らせなのです。

窓越しに見える餌台に来るアトリを眺めながら、今年も海辺で新たな感動と出逢いがあることを、楽しみに春風の吹くのを待っております。



網走市 配島 淳

私が勤めている博物館網走監獄(網走刑務所の古い建物を保存・公開している野外博物館です)は、網走国定公園の中核をなす網走湖と天都山の間位置しています。湖畔までは歩いて十分たらずなのですが、そこに去年12月頃からゴマフアザラシが姿を見せはじめたのです。

アザラシがいるのは「湖の口」と呼ばれている網走川との接続点、結氷したところと流れのために凍らないところの境目あたりです。海岸から「湖の口」までは約7KM、この辺りは餌になるカワガレイやウグイなども多く、結氷した部分は体を乾かすために上陸しやすいことから、すっかり気にいったようで一時は7頭を越えていました。河岸は国道39号線で車の往来もはげしい所なのですが、護岸のために水面から3M近く立ちあがっているので、誰もアザラシに近づくことができないのも幸いしたのだと思います。

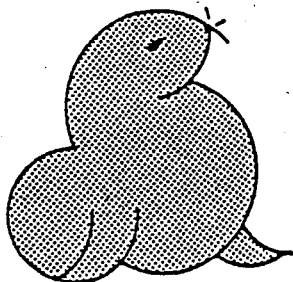
TV・新聞で報道もされ、沿道に車を止めてアザラシウォッチングする人も現れ、日曜日などはかなりの人出にもなりました。アザラシ達は我関せずといった具合で水上で昼寝をきめこむもの、岸に近寄ってカワガレイを捕らえて喰べて見せるものなど様々です。

1月末から4日間程、観察の機会に恵まれました。勤務先が野外博物館ですから周辺環境との兼ね合いということもあり、暫く様子を見ようということになり、私は撮影係をかってでたのです。寒さは相当きつく日中でも-1.0°以下という日もありましたが、1日アザラシウォッチングして給料を貰おうとするのですから文句は言えません。同好の士(静岡からやって来た人も!)との魔法瓶のコーヒーで体を暖めながらアザラシ談義も楽しいものでした。未熟な腕なので良い写真は撮れませんでした。本当に楽しい4日間を過ごしました。

3月に入り近くの魚を喰い尽くしたのか相当広い範囲を泳ぎまわっているらしく必ずアザラシが見れるという状況ではありません。網走湖の氷も少しづつゆるみ始めました。海明けもちかずにいます。アザラシを見れる日もあと僅か、来年もまた見れるかどうかわかりません。今回素晴らしい観察のチャンスを与えてくれた自然に感謝しペンを書きます。

追記

2月24日、C.Wニコルさんが網走にやって来ました。「私はアザラシが大好き、とてもオイシイですよ。」ニコルさんの言葉に暫くの間アザラシを見る私の目に怪しい光りが浮かんでいたことに気づいた人はいない。



春となく夏となく、各地の山々に登り、眼下にひろがる風景など見て、感激して途中の苦しさや疲れなど、どこかへ飛んでいってしまった。また夕べに星と月を見て登り、朝にはさんさんと降りそそぐ陽光をあびて下山となった。特別印象に残っているのは、六十年夏の富士山へ登った時、夕方五時頃五合目より岩場の細い道が曲がりくねり山にしがみつくように屋根の上に石を置いた小屋にたどり着く。休憩所兼宿泊所であり何軒も行くさきにあった。夏の日暮れは遅くとも上へ行くに従い暗くなり、眼下の町の灯が浮かび、宝石をちりばめたように輝いていた。たちどまり見上げた空には満点の星が歓迎するかのようには手をのばすとどくような近くにあった。そして再び下に眼を移すと明るいうちはわからなかったが、ライトが曲がりくねった道と同じく点々ときらきらとなり登ってきているのにあたかも停止しているようであった。山での水は、非常に貴重なものであり、小屋の横には水をためておくタンクがあり、屋根より「とい」により流れつくようになっていた。そういえばたしか四十六年頃と思うが、帰りに東京で待っていると、その飛行機が栗石上空で墜落し別の飛行機が大幅に遅れ家に着いたのは深夜であった。こうした山登りには実際の山頂にあって感激しても周辺を見る眼が非常に小さいものであったことに気づいた。登り下山の予定時間や船やバスの時間を調べても、その山々にどんな木々が、動物が、咲く花、鳴く鳥、そよぐ風があるのか、全くわからない。自らに自然へのはたらきかけや見る眼がなければならぬ。一朝一夕に成り立つものではない。よく登りの道と下山の道は同じ道を歩いている以上同じはずなのに違っていると感じられる。登りには苦しさや呼吸が先行し、下を見て登っているのだから周辺を良く見ていないのではないか。何故か狩場山に真黒い「かたつむり」が住んでいるのは新鮮だ。海の「つぶ」や水田の「たにし」と同じ仲間かもしれない。そして次第に身近な花や木に眼を向けるようになった。

自分の家の周辺にはどんな木々が花が、在宅中に庭に来る鳥にもなんという名前か。隣の庭にはどんな種類があるのかといった疑問が次々に心に浮かんでくる。さりげなく庭に植えてある木がちょっと見なれないといった種類であった。などなど。そしてたしかに自然を見る眼や心は変化してきたことに気づく。同じ木にせよ春夏秋冬その姿を変え、どんな風にも雨にも耐え空高く伸びようとする。この変化を、自然の中で役割をものいわぬけれども読みとり観察会などで伝えていきたい。そして研集を重ねまじめな中にもちょっと遊び心も取り入れ、主催し多くの人々におもしろさや楽しさを伝えたい。

自然観察のマナー



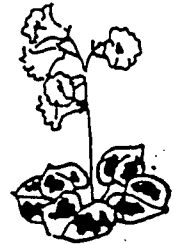
☆生き物をとらないで ☆大きな声や音を出さない ☆ゴミは持ち帰ろう ☆タバコは投げ捨てない

全校児童250名の漁村の小学校に勤務して5年目から始めたのが自然観察クラブです。今年(62年度)は3年目ですがその概要を紹介します。

1. 人員 4年生8名 5年生5名 6年生4名 指導教諭2名

2. 目標

- ア. 自然に直接触れ、五感を使って自然を観察できる。
- イ. 郷土の地勢・動植物について知識を得る。
- ウ. 自然の恵みを実感する。
- エ. 自然を愛護する心を持つ。



3. 年間計画

4月 春の野山(芽の出るころ) 5月 春の野山(カエル、サンショウウオの卵、山菜、のぼるアカハラ) 6月 昆虫と樹木、山菜の学習、鳥のさえずり、7月 ヤマグワの実、磯の生き物、8月 川の生き物(ゴリとりのしかけ、川のきれいさ調べ) 9月 木イチゴつみ、キノコ、10月 秋の木の実(コクワ、ヤマブドウ、アキグミ)キノコと樹木(ナメコ、エノキタケ、ムキタケ) 11月 樹木の冬ごもり(昆虫の越冬) 1. 2月 アニマルトラップ(ネズミ、エゾリス、キツネ、エゾユキウサギ) 林の鳥(カラ混群) バードテーブルでの給餌 3月 山に登って郷土を見直す

4. これまでの子どもたち

- ア. 安全指導面から河川や海岸での遊びが規制されたり、家庭での指導から、自然の中に出かけて遊ぶということが少なかった。地域には丘の中腹に整備された公園があるが、日常あまり出かけないし、行ったとしても、遊具遊びや芝生での球技などがほとんどであった。海岸や川での釣りも、ごく少数の児童に限られていた。それから市街地から離れた所への移動範囲が大変狭かった。
- イ. 次のような子が目立ったためクラブづくりを考えた。
 - ・川原の石わたりができない子 ・段丘斜面を登れない子
 - ・斜面で枯木や弱い草につかまって落ちる子
 - ・タラノキの茎につかまってただ泣く子(斜面で)
 - ・野草で手を切る子 ・木登りのできない子
 - ・藪に入れない子 ・小川で川下を向いて渡って流されたり転ぶ子
 - ・河岸の草のひさしに踏み込んで川に横になって落ちる子
 - ・狭い幅の溝も跳びこせなくて、わざわざ一たん底に下りる子

5. 実施の状況

潮汐の都合で磯での活動以外、ほとんど計画に沿って活動できた。毎回、木登り、川渡り、藪の中歩行、斜面登りなど特に取り組むようにした。また、昆虫、魚、山菜、木の実採りも多く入れた。児童は興味を示し、連休に連れ立って野山へ出かける姿が多くなり、新発見の報告が増えた。1時間では充分な活動ができないこと、人数制限が必要なこと等、制約は多いが、理科の学習の利用や休日の子どものふれあいを利用するなど、今後、自然とふれあえる子をもっともっと増やしていきたいと考えています。

——— 昭和63年度「自然に親しむ集い」の実施について ———

幹事長 大友 健

このことにつきまして、北海道生活環境部より、エゾマツ会々長あてに、次の通り、実施要領の案内がありましたので、会員各位におかれましては、趣旨をご理解のうえ、積極的に、それぞれの地域において、参加くださいますよう、お願い致します。

1. 名称 「自然に親しむ集い」
2. 実施主体及び実施期間 各支庁5月1日～10月31日
3. 対象者 小・中・高児童生徒及び一般道民
4. 実施内容

市町村、関係団体等の協力を得ながら野外自然観察会、探鳥会、植樹祭ハイキング、登山、キャンプ、歩け歩け運動等の催しを1～2回開催し、自然環境保全、適正な利用について説明するとともに、野外観察の方法などについて指導を行う。

※ 支庁・市から観察会等の案内が来ていますので同封します。



——— ボランティア保険加入手続きについて ———

会計幹事 小竹数博

「エゾマツ会」も2年目入に入り活動も一段と活発となって来ましたので、万一の事故等に備え「ボランティア保険」への加入をお勧めします。保険の内容は別紙の通りですが、特徴・加入手続きについて付け加えます。

- 特徴
- ・掛金は1名につき300円（加入時期に関係ありません）
 - ・保証期間は、4月1日から翌年の3月31日まで（途中加入の場合は、加入日の翌日から3月31日となります。）
 - ・「エゾマツ会」以外の活動であっても、ボランティア活動と認められれば対象となります。

加入手続き

- ・受付窓口が各市町村の社会福祉協議会（社協）ですので、原則として個人で手続きをしてください。

※ 同封したパンフレットを参照にしてください。

—— 会費未納の方へ ——

62年度会費が、約40%の方が未納となっております。このままですと会の運営にも支障をきたしますので至急納入下さるようお願い致します。

尚、未納の方には別紙「会費催促の通知」を同封してありますので、よろしくようお願い致します。

連絡先 〒 065

札幌市東区東苗穂6条1丁目8-26
小竹 数博 電話 011 (784) 6251



郵便振替口座 利用の方

番号 小樽 8-21442 番

名称 ボランティアレンジャー「エゾマツ」会

※ 6月25日までに納入下さい。

—— 訃報 ——

エゾマツ会々員、横山孝様が脳血栓で1月28日に亡くされました。横山様は第1期生のボランティアレンジャーとして苦小牧で活躍されていました。ご逝去を悼み心よりご冥福をお祈りいたします。

—— 訂正 ——

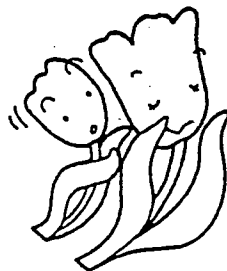
前回お届けした「エゾマツ」4号で、——「自然観察雑感」——出版物の記載で、「北の国の雑木林」(菊地喜八郎著)とありますが、(菊沢喜八郎著)の誤りでした。訂正してお詫び致します。

—— 観察会報告 ——

4月3日、「ウトナイ湖春の渡り鳥観察会」が予定通り実施されました。天候は曇りでしたが、12名が参加致しました。この5月に転勤される、安西英明レンジャーにスライドでレクチャーをうけ観察しました。当日めったに見ることができない「シジュシカラガン」も飛来していました。またオナガガモのディスプレイが印象的でした。

4月24日「早春の野幌森林公園(ごみ拾い)観察会」では8名参加しました。

※ 編集後記は紙面の都合上割愛致します。



昭和63年 海野自然ウォッチング予定

回	テーマ	月・日	講師	募集 人員	内容	対象	主なフィールド
1	早春の草花 ウォッチング	5月8日 (日)	原 松次	50人	ミズバショウ、フツシロなどの 早春の草花の観察 する。	マニア向け	ミズバショウ園 ますみの滝
2	春の野鳥 ウォッチング	5月22日 (日)	野生生物情報 センター	50人	イオリ、キビタキ等の 野鳥の観察と 春の草花を見る。	マニア向け	アソバの滝 不老の沢
3	クイズで楽しむ 海野自然ウォッチング	6月19日 (日)	野生生物情報 センター	200人	森のしくみ 植物(昆虫) を中心にクイズを やりながら。	一般向け	炊事場 ミズバショウ園
4	新緑の植物 ウォッチング	7月10日 (日)	原 松次	50人	溪流ゾーンをば すれ、奥に入り 植物を観察する	マニア向け	白帆の滝～ 奥(コース終)
5	夏の 昆虫ウォッチング (No.1) 【虫塚、クワガタ】	7月30日 (土)	野生生物情報 センター	100人	夏休みの子供対象 に蜂やクワガタ を中心に昆虫を 観察する。	子供及び 両親	ミズバショウ園 ～ますみの滝
6	夏の 昆虫ウォッチング (No.2) 【トンボ】	8月14日 (日)	野生生物情報 センター	50人	トンボを中心に夏 休みの子供対象 を対象に昆虫、植物 を観察する。	一ヶ	森林広場～ 白帆の滝下
7	星座ウォッチング	8月28日 (日)	札幌市青少年 科学館	150人	初秋の星座の 観察指導を 行う。	一ヶ	溪流口 草場
8	秋の 昆虫ウォッチング (No.3) 【鳴く虫】	9月11日 (日)	野生生物情報 センター	50人	鳴く虫、秋の野 草の観察を行う	一ヶ	ミズバショウ園 周辺
9	紅葉・木の実 ウォッチング	10月10日 (月・祝)	原 松次	50人	紅葉、木の実の 植物観察を 行う。	マニア向け	白帆の滝～ 奥(コース終)
10	冬芽・足跡 ウォッチング	3月19日 (日)	野生生物情報 センター	50人	樹木の冬芽、 動物の足跡、 野鳥などの観察	歩くスキ るび 一般	ますみの滝

- 日程が変わることも有りますので、ご参加の場合は、直接
海野すずらん丘陵公園 TEL. 011-592-2222 へお申し込み
になり、日程を確認の上おでかけください。

昭和63年度「自然に親しむ集い」行事予定

(留萌支庁林務課)

- 5月3・4日 天苑焼尻探鳥会 (羽幌町天苑・焼尻島)
日本野鳥の会道北支部と共催
- 5月15日 森の自然観察会 (留萌市藻山)
留萌市教育委員会と共催
- 6月26日 森の自然観察会 (留萌市藻山)
留萌市教育委員会と共催
- 7月2・3日 海鳥の生態観察 (羽幌町天苑島)
留萌市教育委員会と共催
- 7月3日 草原の鳥探鳥会 (幌延町パンケ沼)
日本野鳥の会道北支部と共催
- 7月上旬 鳥害別岳高山植物を見る会 (増毛町鳥害別岳)
増毛山岳会と共催
- 9月25日 秋の渡り鳥探鳥会 (幌延町パンケ沼)
日本野鳥の会道北支部と共催
- 10月上旬 鳥害別岳紅葉を見る会 (増毛町鳥害別岳)
増毛山岳会と共催
- 10月23日 森の自然観察会 (留萌市藻山)
留萌市教育委員会と共催

※ 5月15日、6月26日、10月23日の「森の自然観察会」についてボランティア・レンジャーの派遣をお願いします。

7/10. 札幌市アポイ法 アポイ岳登山自然観察会
連日 田町自然保護課

昭和63年度 野幌森林公園の観察会

1 四季の観察会

- 5月22日(日) 春の森林観察会。9時半記念館前出発
- 8月2日(日) 夏の森林観察会。 " " "
- 10月23日(日) 秋の森林観察会。 " " "
- 2月26日(日) 冬の森林観察会。10時半 "

2 月例観察会

- 4月/4日(木) / 0時半案内所前出発 / 3時解散予定
- 6月 9日(木) " " "
- 7月/4日(木) " " "
- 9月 8日(木) " " "
- 11月/0日(木) " " 記念館前出発
- 12月 8日(木) " " "
- 1月/2日(木) " " "
- 3月 9日(木) " " "

3 観察コース

四季の観察会は、大沢口・カツラコース・大沢園地を通ってもどります。(約8KM) なお冬季のみ大沢口からニゾニズリハコースを通ってもどります(約6KM)
月例観察会は、みずせコースから開拓の村に三つコースを一周します。(約3KM)

4 その他
冬期間(1・2・3月)の観察会は、歩くスキーを
はいて行います。

活動中の事故に備えるために

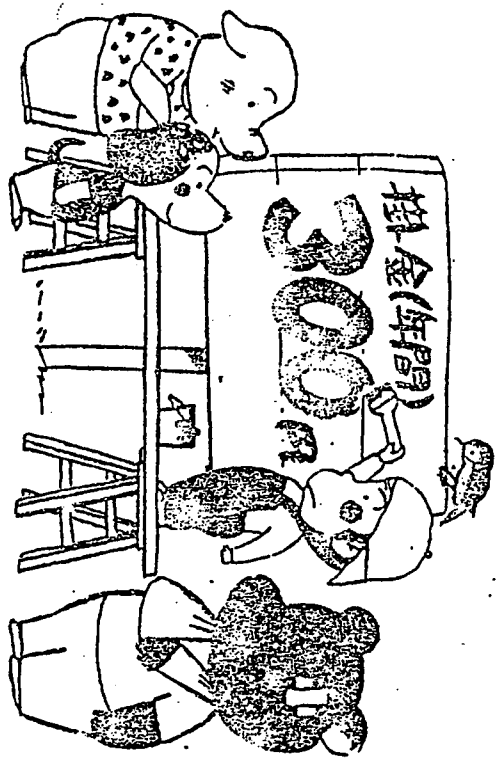
ボランティア保険

* 傷害保険 (ボランティア自身のケガ)

フラ入

* 賠償責任保険

(活動中、他人の身体、財物に損害を与えたとき)



安心してボランティア活動を!

社会福祉
法人

全国社会福祉協議会

全国ボランティア活動振興センター

ボランティア保険に加入できる方は…

- ボランティア活動に参加する方
- ボランティア推進機関・団体の役員
- ※小・中学生等も加入できます。

この保険でいうボランティア活動中とは…

- 無給で、自助活動でないこと
- この保険では、活動場所への往復やボランティアの学習会、活動の企画・運営会議等への参加も活動中とみなします。

保険金をお支払いできない主な例

- 傷害保険**
- ▽加入者の故意によるケガのとき
 - ▽地震・噴火・津波等天然地変のとき
 - ▽加入者の自覚行為または犯罪行為によるケガ
 - ▽戦争・暴動・労働争議によるケガ
- 賠償責任保険**
- ▽故意
 - ▽自動車・オートバイや航空機で起こした事故
 - ▽同意の取得に対する事故
 - ▽法令による事故

※自動車による事故は、加入者自身のケガのみが対象となり、対人・対物事故等の賠償責任については対象となりません。

加入手続

所定の用紙(加入台帳)にて記入のうえ、掛金を添えて、もよりの市区部町村社会福祉協議会のボランティア担当窓口にお申込みください。(裏面加入台帳記入例をご参照ください。)

事故が起きたら…

ただちに、加入手続きをした社会福祉協議会に、

1. 事故日
 2. 場所
 3. 事故内容
- を必ず連絡して下さい。



ハイ
社会福祉
協議会
です。

ボランティア保険がさらに充実しました

この保険は、ボランティアの皆さんが本保険に加入することによって、ボランティア活動中に、
 ①ボランティアがケガをした場合の「傷害保険」との第三者の身体または財物の損害を専らとした場
 合に見舞金(慰問料)など賠償金を支払う「賠償責任保険」をキットにしたものです。

この保険での保障内容

保 険 者	お支払いする金額	対象になる場合	具 体 的 な 内 容
個人	死亡 200万円	ケガのため事故の日から180日以内に不幸にして死んだ場合	○加入者がボランティア活動中事故により、不幸にして死んだとき ○病院でボランティア活動中、閉鎖足を骨折外してケガをされたとき ○児童のハイキング引率中、加入者が車にはねられたとき ○老人ホームなどで活動中、ガラスで傷をおいたなどの場合
	遺体運搬費 500万円 (祝儀額)	ケガのため事故の日から180日以内に身体の一部を失ったり、その損傷に重大な障害を来した状態になった場合	
	医療費 入院1日1500円 (90日限度) 入院1日3000円 (180日限度)	ケガのため通院又は入院して医師の治療を受けられた場合	
法人	1 50,000万円 (祝儀額)	第三者の身体に損害を与え法律上の賠償責任を負った場合	○加入者が子どもなどのサイクリング行事の引率中、指導ミスにより子どもが転倒して骨折にも死亡したとき ○ボランティア活動中、監督または作業上のミスで個人・老人等にケガを負わせたとき ○福祉施設のボランティア活動中風って子どもを倒してケガを負わせたとき
	1 事故 1億円 (祝儀額)	(多数の第三者に事故が発生し) (た場合は1事故を適用します。)	
法人	1 事故 300万円	第三者の財物に損害を与え、法律上の賠償責任を負った場合	○子供会の指導中、誤って児童のガラスを壊ったとき

＊ただし、本人の事故に対する返戻金付の対象となる治療日数は、いかなる場合も被害の日から通院(90日)入院(180日)が限度となります。
 ・引率保険・生命保険などに加入しなくても保険金をお支払いいたします。
 ・引率の事故・引率事故は、いずれも免責(自己負担)10,000円となります。

掛金

・1名につき300円です。
 (掛金はいずれの時期に加入しても300円となります。)

保障期間

・毎年4月1日から翌年3月31日まで(加入年次)です。
 (中途加入の場合は加入日の翌日から有効になります。)

取扱う保険会社

・幹事会社 日本火災海上保険株式会社(全国各支店)

加入台帳記入例

加入者 / 加入台帳 昭和57年4月1日
 (市南区町村社協) 社会福祉協議会

社 団 体 名 (次 谷 正 社 会 福 祉 協 議 会)
 所 属 部 門 名

氏 名	住 所・電 話 番 号	備 考(グループ名・活動内容)
1 木村 淳	次谷区代木 1-1-3	丁六小会・遊芸科
2 梅垣美代子	次谷区初台 1-8-9	
3 榎島 雅子	次谷区面麻 2-6-10	
4 河合 正人	目黒区東ヶ丘 6-15-8	
5 早田 美二	次谷区上原 2-7-28	
6 黒川 明子	次谷区代木 3-1-4	
7 菅野 敦子	次谷区東ヶ丘 5-30-22	
8 立花 真理	世田谷区代田 7-1-3	
9 宮川 雪子	世田谷区北沢 6-12-4	
10 石渡 隆一	次谷区西原 1-19-7	

※グループ等で既に名簿がある場合には、三部複写してご持参ください。加入申込書に代えることができます。

※お申し込み、ご照会は下記の市区郡町村社会福祉協議会

ボランティアセンターに



東京都千代田区麹町3丁目3番4号
 全国社会福祉協議会
 全国ボランティア活動振興センター
 TEL 03-581-4655 (直通)